

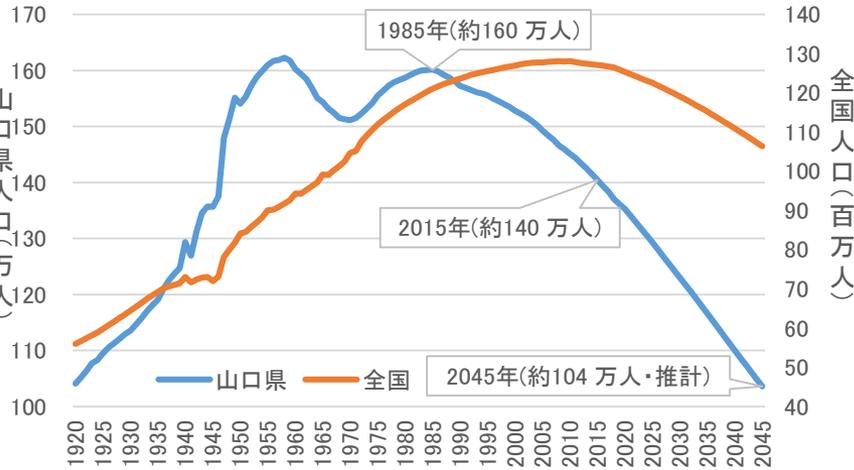
山口県の人口の現状について

- 1 人口の推移と将来推計
- 2 性別・年齢階級別の人口移動の状況
- 3 都道府県間の人口移動の状況
- 4 出生数・出生率等の状況
- 5 まとめ

1 人口の推移と将来推計

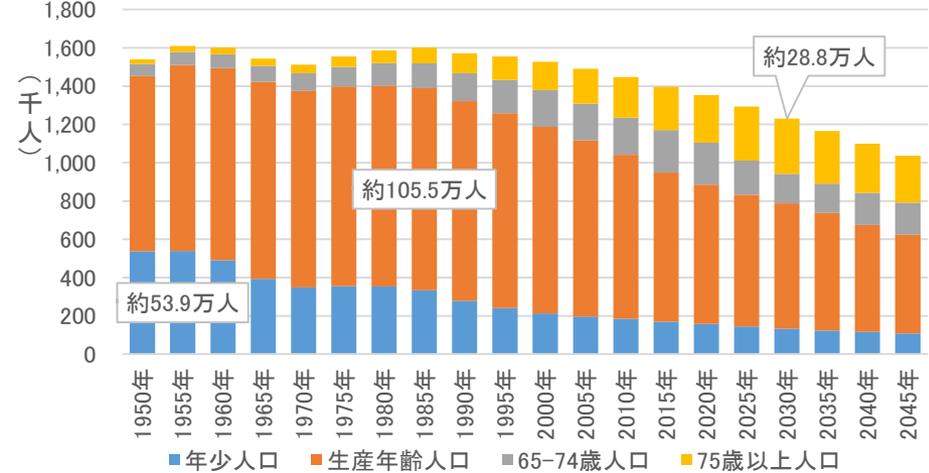
- ・本県は1985年以降、一貫して人口が減少。今後もこのままの趨勢では2045年には約104万人まで減少する見込み
- ・年少人口は1955年、生産年齢人口は1985年をピークに減少。75歳以上人口は2030年まで増加し、以降減少局面へ
- ・1960～1975年の高度経済成長期に大量転出、その後落ち着くも一貫して転出超過（社会減）の状況
- ・第2次ベビーブームの1973年以降出生数は減少。1995年以降は死亡数が出生数を上回る自然減の状況

総人口の推移(山口県・全国)



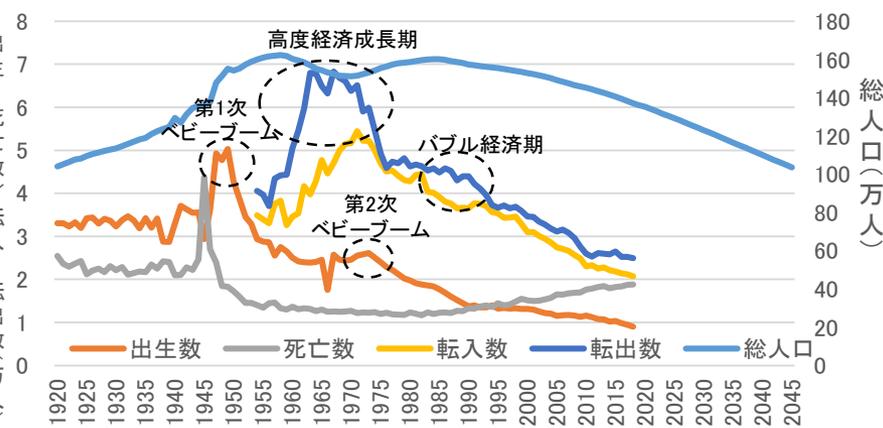
出典：総務省「国勢調査」「推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

年齢区分別人口の推移(山口県)



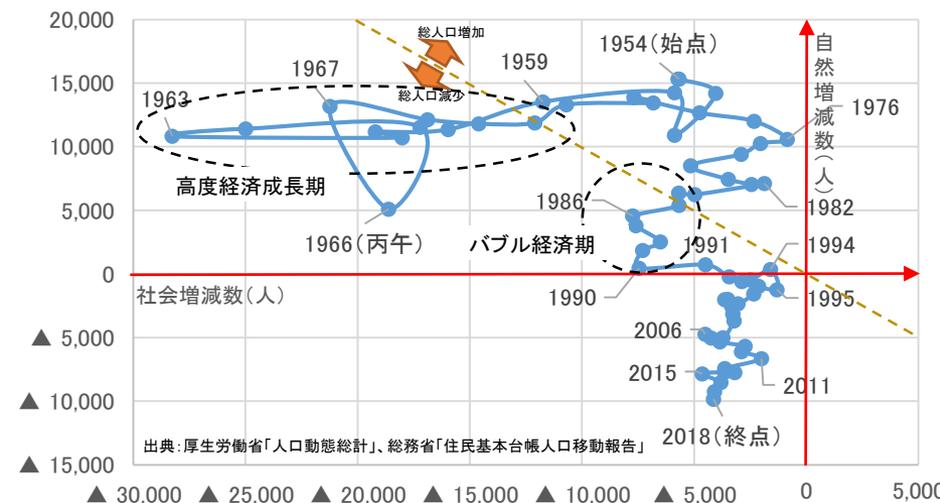
出典：総務省「国勢調査」「推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

出生・死亡数、転入・転出数の推移(山口県)



出典：総務省「国勢調査」「推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」
厚生労働省「人口動態総計」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」

総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響(山口県)

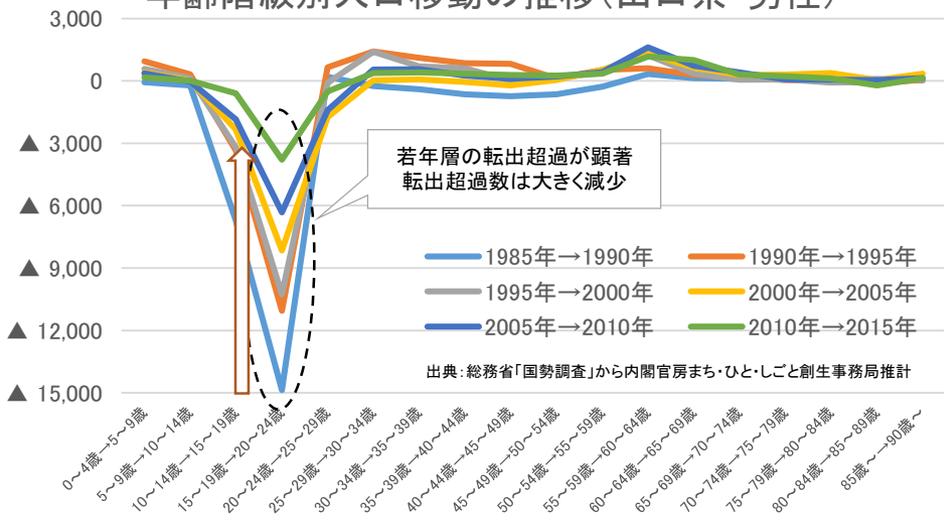


出典：厚生労働省「人口動態総計」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」

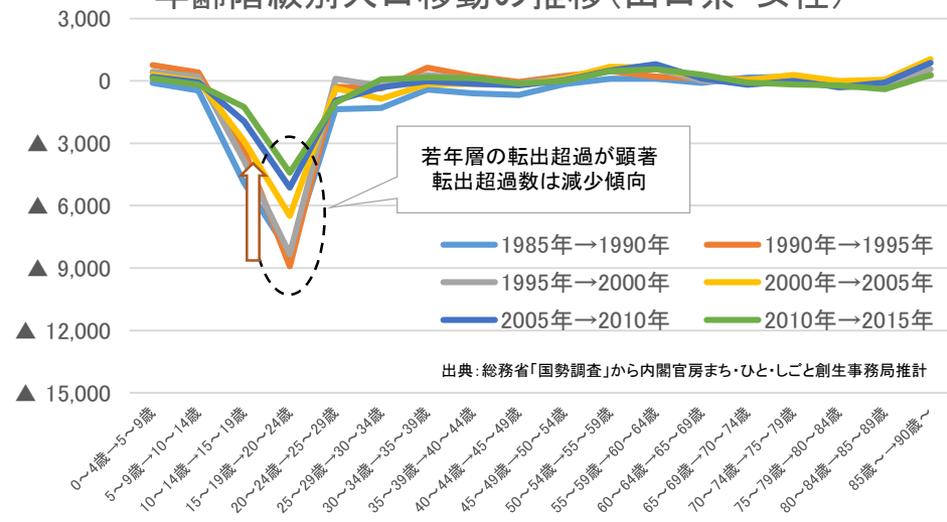
2 性別・年齢階級別の人口移動の状況

- 男女とも、15-24歳の若年層の転出超過が顕著。その後の年齢階級で回帰の動きが低調
- 転出超過数は減少傾向だが、女性に大きな動きはなく、近年は若年層の女性の転出超過が顕著
- 現役世代に大きな移動が見られない中、退職世代（55-59歳→60-64歳）に回帰の動き

年齢階級別人口移動の推移(山口県・男性)

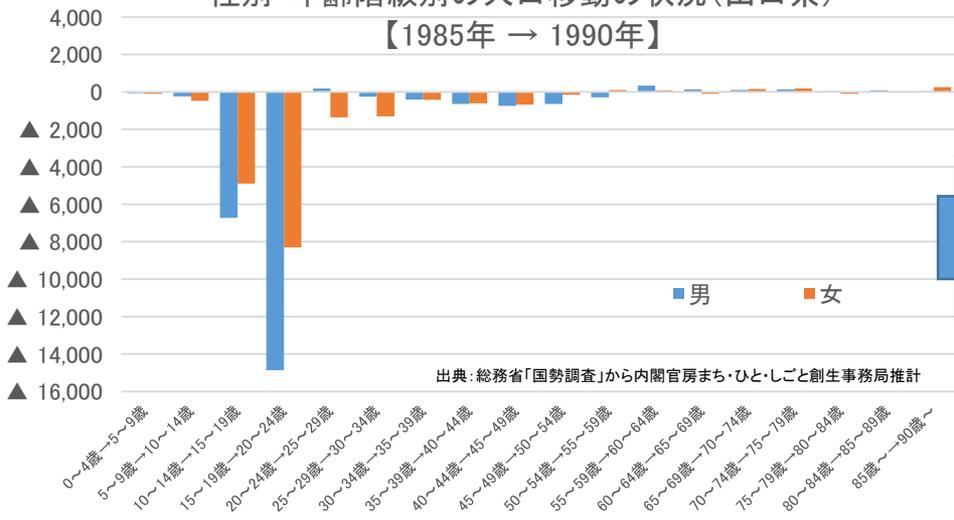


年齢階級別人口移動の推移(山口県・女性)



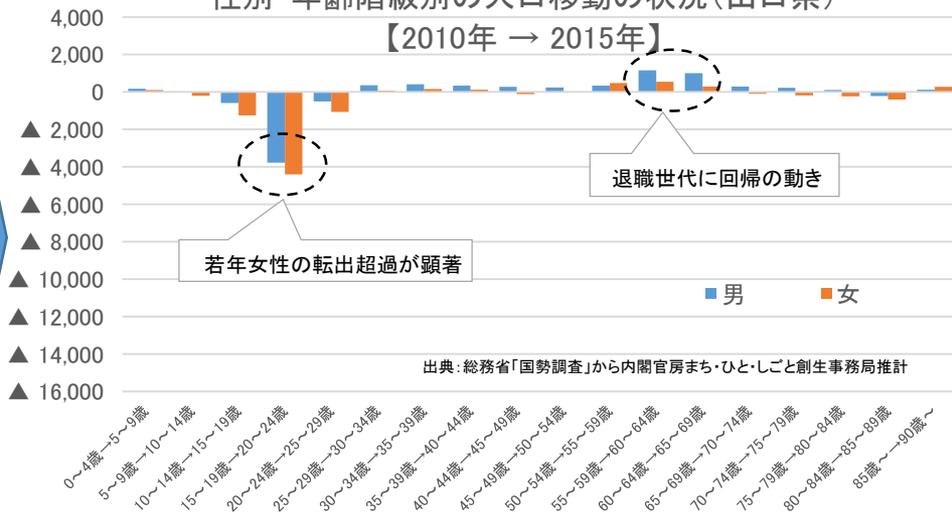
性別・年齢階級別の人口移動の状況(山口県)

【1985年 → 1990年】



性別・年齢階級別の人口移動の状況(山口県)

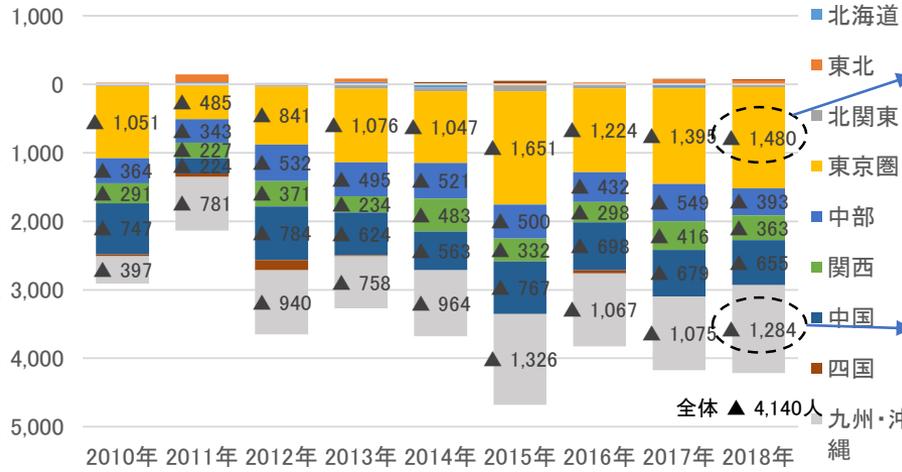
【2010年 → 2015年】



3 都道府県間の人口移動の状況

- ・ここ数年、全体で4千人前後（2018年で4,140人）の転出超過（※外国人を含めると3,377人の転出超過(2018)）
- ・地域ブロック別にみると、東京圏（東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県）への転出超過が顕著
- ・都道府県別では、福岡県、東京都及び広島県への転出超過が顕著
- ・転入・転出とも、東京圏、福岡県及び広島県で全体の半数以上

地域ブロック別の人口移動の状況(山口県)



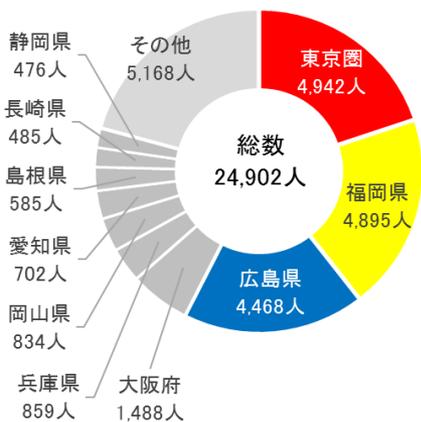
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

【内訳】

都道府県	転入超過数
東京都	▲ 828
埼玉県	▲ 242
千葉県	▲ 182
神奈川県	▲ 228
福岡県	▲ 1,440
佐賀県	7
長崎県	15
熊本県	28
大分県	36
宮崎県	87
鹿児島県	34
沖縄県	▲ 51

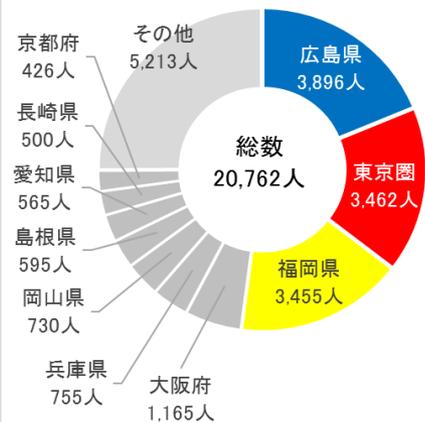
転入超過上位10都府県(2018年)		転入超過上位10県(2018年)			
順位	都府県	転入超過数	順位	県	転入超過数
1位	福岡県	▲ 1,440	1位	奈良県	89
2位	東京都	▲ 828	2位	宮崎県	87
3位	広島県	▲ 572	3位	大分県	36
4位	大阪府	▲ 323	4位	鹿児島県	34
5位	埼玉県	▲ 242	5位	高知県	29
6位	静岡県	▲ 235	6位	熊本県	28
7位	神奈川県	▲ 228	7位	香川県	23
8位	千葉県	▲ 182	8位	秋田県	21
9位	愛知県	▲ 137	9位	山形県	20
10位	兵庫県	▲ 104	10位	三重県	18

山口県からの転出数内訳

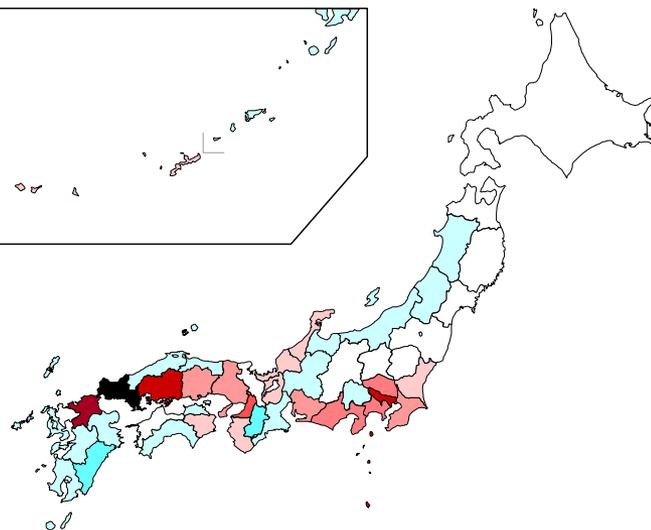
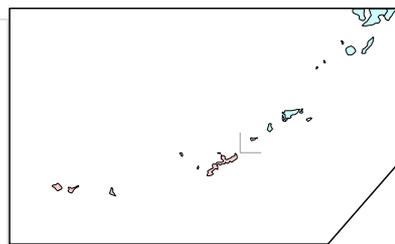


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告(100)」

山口県への転入数内訳



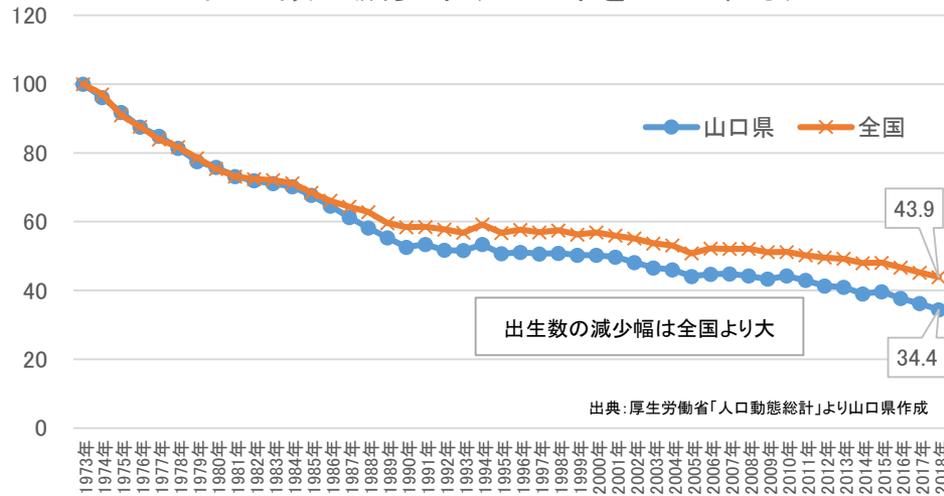
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告(100)」



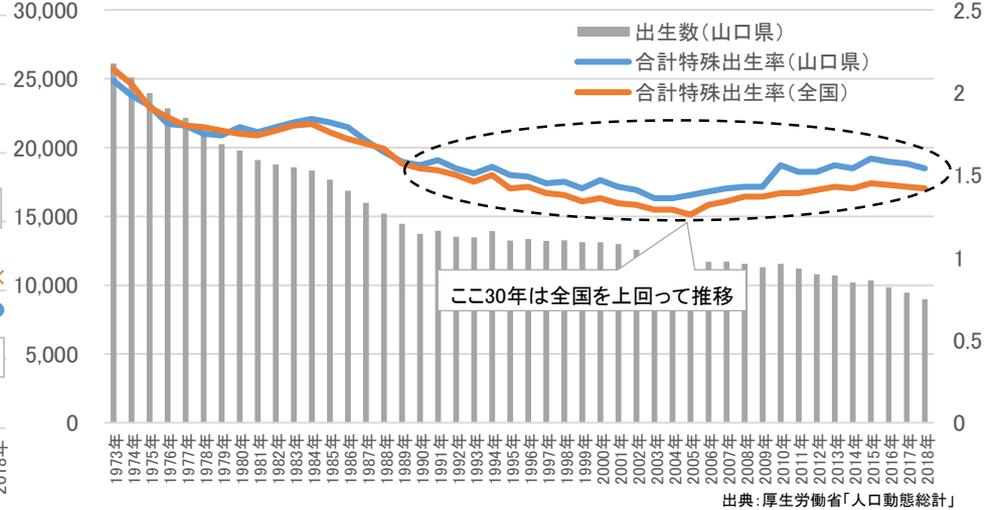
4 出生数・出生率等の状況

- ・第2次ベビーブームの1973年以降出生数は減少。2018年の出生数は1973年の34.4%で、**全国（約44%）**と比べて減少幅大
- ・一方、**合計特殊出生率はここ30年全国を上回って推移**。本県・全国とも近年持ち直しの傾向
- ・**出産期（20-39歳）女性人口の減少が著しく**、総人口に占める割合も全国・東京を大きく下回って推移
- ・20～39歳女性人口は出生時の人数の約76%となっており、**若年女性の流出が出生数の減少の大きな要因**

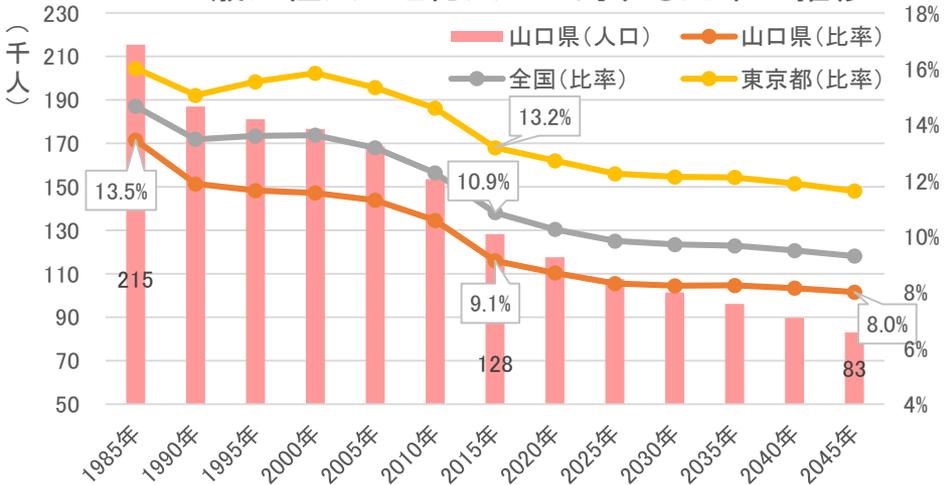
出生数の減少率(1973年を100とする)



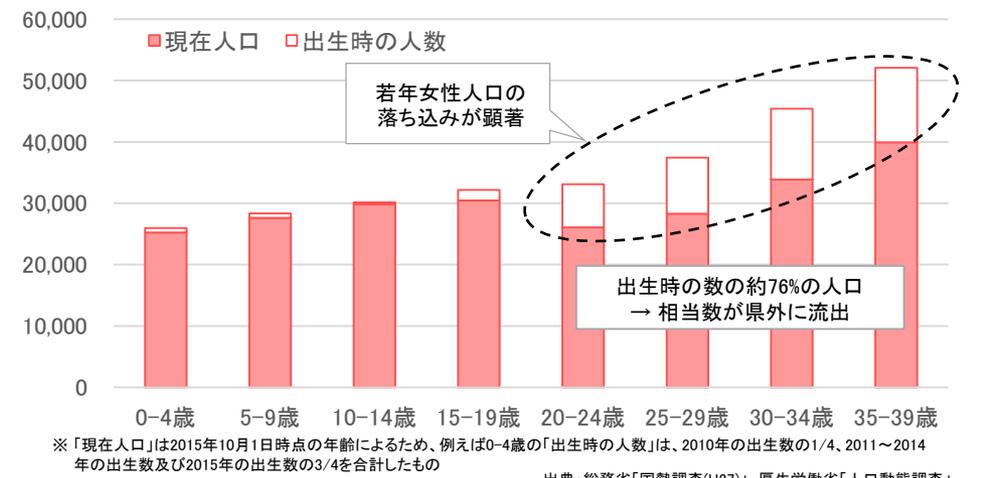
合計特殊出生率と出生数の推移



20-39歳女性人口と総人口に対する比率の推移



出生時の人数と現在の5歳階級人口(山口県女性)



5 まとめ

- 1985年以降、一貫して人口が減少。このままの趨勢では2045年には約104万人まで減少（2015年比25.3%減）
- 一貫して社会減、さらに1995年以降は自然減が続く状況
- 15-24歳の若年層の転出超過、特に近年は若年女性の転出超過が顕著
- 東京圏、福岡県及び広島県への転出超過が顕著
- 合計特殊出生率が全国を上回って推移する一方、出生数の減少率は全国より大きく、若年女性人口の減少が自然減にも大きく影響